

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：名古屋大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○概ね計画通りの取組である。

ビジネス日本語、キャリア教育参加者数は計画数をクリアしているが、平成30年度の就職率が下がっており、それをカバーして目標年度の令和3年度に50%の就職率が達成できるか未知数である。今後の就職数の確保のために、原因の分析を踏まえた具体的な対応の実施や、就職希望の学生の発掘と就職の魅力発見のための施策等が必要になる。

2. プログラムの内容の進捗状況

○概ね計画通りの取組である。

インターンシップの課題や、今後の就職意欲のある学生数の確保について課題の洗い出しが行われているが、対応策までは明確になっていないように思われる。

企業との交流が進んでいるが、それがインターンシップや採用に具体的に結びつくように取組を進めることが期待される。また、参加している各大学の特性に基づく具体的取組の構築も今後の課題である。

なお、本プログラムにおけるビジネス日本語の教育と、初級日本語教育を分けて成果を整理するとともに、参加学生の日本語能力の達成度を明らかにする必要がある。

併せて、留学生の日本語スピーキング能力検定試験の結果と就職の相関性を把握しておくことが望まれる。

3. 実施体制の構築、活動状況

○概ね計画通りの取組である。

コーディネーターの主体的な働きかけにより、全体の連携が進んでいる。また、コンソーシアムとして機能しており、企業数の確保も十分に広がりを見せている。

企業団体と自立化に向けた話し合いを持っているようであるが、今後、他大学や自治体、経済団体等との役割分担を図りながら、事業を継続する体制を具体化することが必要である。

4. 他大学が参考にできる事項等

○留学生の早期からの企業との接点づくりが随所に設けられており、互いの状況を理解できる場が設けられている。(経済団体と連携したパネルディスカッションにおける留学生と企業の同時参加、経済団体によるワークショップでの社員と留学生の参加、留学生向けジョブフェアにおける外国籍社員の同伴など)